

4: 今回の展覧会に、なぜこれほど大きな反響が起きていると思いますか？

私は、この展覧会を「完成された答えを提示する場」だとは考えていません。

むしろ、「アート」と「ART」の違いについて、共に考え、議論を始めるための場所です。言い換えれば、“思考が始まる場”です。

実は、それこそが世界の ART に近い状態だと思っています。世界の ART は、単に美しいものを並べるだけではありません。社会や価値観に問いを投げかけ、人々の認識を揺さぶり、議論を生み出していくものです。

今回、SNS を通じて国内外から大きな反響をいただいておりますが、私はそれを単なる展示への反応だとは思っていません。

多くの人が反応している本質は、「日本の“アート”観を更新したい」という問題提起に対して、“自分ごと”として共鳴しているからだと思うんです。

つまり今起きているのは、作品への評価だけでなく、“価値観の転換”への反応なんです。

数年前まで、日本では「市場化は悪だ」とか、「価格を語るのは下品だ」という空気が強くありました。しかし、NFT 以降、「価値とは何か」「なぜ人は価値を共有するのか」という議論が一気に一般化したと思います。

それによって、富裕層だけではなく、一般の人たちも“資産”や“価値形成”という概念に敏感になりました。だから今、人々は単なる装飾としてではなく、「なぜこの作品が価値を持つのか」という構造そのものに興味を持ち始めているのです。

ART には、単に飾ることを超えて、社会の価値観そのものを動かす力があります。

私は、今起きている反響は、「日本でもそろそろこの議論を始めるべきではないか」という空気の現れなのだと思います。